



# 婦人科検診のススメ



女性にとって非常に重要な「婦人科検診」。  
その基本的な知識や気になる点についての質問を、  
心斎橋クリニックの婦人科専門医にお答えいただきました。

回答 心斎橋クリニック 婦人科医師 永田実穂

—どのような検査がありますか？

女性医師が直接触診する「内診」と、子宮の入口側の細胞を擦り取ってがんの兆候がないか調べる「子宮頸部細胞診」が基本となります。その他、希望される方には経膈超音波検査やHPV検査も実施しています。

—婦人科検診の目的は何ですか？

やはり、子宮頸がんを発見するのがおもな目的ですね。内診で入口側のポリープや大きい子宮筋腫を発見することもあります。子宮体がん(子宮奥側のがん)や子宮筋腫・肉腫、卵巣の異常などを見つけるには超音波で調べる必要があります。

その後、問診の内容と検査結果から判断して、健康な状態なのか、経過観察をするのか、すぐに婦人科を受診していただくのかという判断をお伝えします。

—受診される方の年齢層はどれくらいですか？

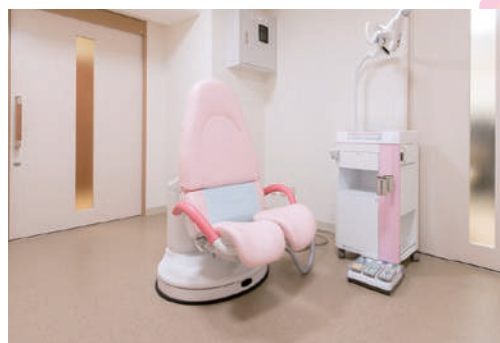
下は20代から上は60代までという感じですね。子宮頸がんは若い世代でも発生するので、20歳になったらぜひ検査を受けていただきたいですね。

—ポリープ・子宮筋腫と子宮がんは違うものなので  
すか？

二つとも、がんとはまったくの別物です。子宮頸管ポリープは基本的に良性です。ただ100%ではないので、大きかったり不正出血があったりした場合には婦人科の受診をおすすめしています。

子宮筋腫は良性の腫瘍ですが、症状によっては手術の必要が





出てきますし、悪性である子宮肉腫との判別が難しいため注意が必要です。

### —HPVウイルスについて教えてください。

おもに性交渉によって感染するウイルスで、その種類によってリスクは異なります。多くは膣の自浄作用で流れていくのですが、継続的に感染していると子宮頸がんやコンジローマ等の発生に繋がります。

ただ、その可能性は高くありませんし、きちんと検診を受けていれば感染自体を恐れる必要はないかと思えます。

### —婦人科検診を受けたほうがいい理由は何ですか？

やっぱり、受診することで病気を早めに発見できる、そして早めに対処できることが一番重要だと思います。

例えば、進行する前に子宮頸がんを見つけれられたため、子宮全体ではなく入口だけ円錐形に切除するケースもあります。この場合、早産などのリスクはありませんがお産自体は可能です。早めに対処すれば、治療方法の選択肢も広がることになります。

### —最後に、読まれる方へメッセージをお願いします。

早めに病気を発見できるかどうかで、それからの人生が変わると思います。なので、ぜひこまめに検診を受けていただきたいと思います。

国や自治体は2年に1回の受診を推奨していますが、それだと去年受けたかどうかわ忘れてしまうこともありますし、できれば毎年受けましょう！



### レディースフロア完備!

心齋橋クリニックは、婦人科の検査に対する不安や緊張を取り除くためにレディースフロアを設けております。落ち着いた雰囲気の中で女性医師・技師・スタッフによる丁寧な対応で受診者様をお迎えいたします。安心して検診をお受けください。